

千年の草原の継承と創造的活用総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.8+3.8)/2=3.9$

3.8

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	評価指標(1) ①草原管理面積 ②野焼き再開牧野数	149%	4
2	評価指標(2) 牛馬の放牧頭数	-	4
3	評価指標(3) ①観光入り込み総数 ②阿蘇地域の宿泊客数	-	4
4	評価指標(4) あか牛肉料理認定店数	66%	3
5	評価指標(5) 草原体験利用者数	-	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 4 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 5 = 3.8$

3.8

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.8

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3+4+3.7)/3=3.6$

3.6

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.7

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.6

・災害とコロナ禍という観光分野には厳しい状況が続く中、取組を継続されている点を評価したい。令和5年度から上向きとなる指標が増えることを期待したい。

・阿蘇草原を守り抜く工夫として、外国人による野焼きボランティア育成研修や、旅行者による「草原の守り人」など、参加体験型のサステナブル観光に資する取組も行われており、まさにこれからの時代に則したエコツーリズム、アドベンチャーツーリズムなど、自然コンテンツが高付加価値商品につながる可能性を秘めている。

・阿蘇草原を保全していくために必要な資金と人材を持続的に確保するためには、阿蘇カルデラツーリズムというコンセプトに沿った具体的で創造的な取組が必要なのではないか。

・草原の保全を始め阿蘇ならではの循環型の営農形態の追求は、SDGsの観点からもそのこと自体がコンテンツとなる可能性がある。地域への来訪者については総数としての把握だけではなく、「何を目的に、どういった活動をしにきているのか」というセグメントを明確にし、その中でもどういったターゲットを狙っていくのか、について戦略を明確にしていくことも検討してはどうか。

・関係人口、交流人口を拡大する全国各地のユニークな取組を参考に、観光の切り口以外も参考とした担い手獲得の糸口を模索することも必要ではないか。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.6

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.8+3.6+3.6 \times 2) / 4 = 3.7$

3.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。